



IDF PRESS RELEASE

IDFプレスリリース

2019年6月20日、ブリュッセル発

持続可能な食料の将来には、反芻動物のためにどれほどの空き場所がありますか？

What room for ruminants in a sustainable food future?

一流の科学者たちが、持続可能な食習慣の見直しにおける農業食品セクターの気候への影響を評価するために集まる

気候変動の議論では、農業の環境フットプリントが議論されることが多く、最近の食料をめぐる議論の多くは牛の潜在的な影響に焦点を当てています。しかし、流布されるすべての情報が科学的に精密な調査にもとづいているわけではありません。

6月21日に [BAMST](#) と [IDF](#) の待望のイベント「[持続可能な食事における反芻動物の役割](#)」において、ハイレベルの国際的な講演者たちが、持続可能な食料システムの中での反芻家畜の栄養や環境への密接な関係を評価するために、最新の科学を議論することで、この問題に対処しようとしています。

学術的非営利団体である [BAMST](#) の会長である、ブリュッセル自由大学の **Frédéric Leroy** 教授のコメント：

「肉や乳製品などの動物由来食品は、近年、批判的に見られてきました。しかし、それは必ずしも正当性が示されているわけではありません。このイベントで、私たちは、科学的なニュアンスを重要な議論へ取り戻したいと思います。健康的な食料を提供し、世界の炭素排出量を削減するために持続的な努力を払うためには、正確な情報が不可欠です。」

あらゆる形態の動物の農業と同様に、反芻動物の生産には土地やその他の資源が必要です。反芻動物はまた、慎重な管理が必要な糞尿と、地球温暖化係数（GWP）を伴う温室効果ガスであるメタンを産生します。しかし、研究と実践はまた、反芻動物が農場の持続可能性を改善し、異常気象に対する強靱性（レジリエンス）を高め、土地の最良の管理人の生活を支援する方法を論証してきました。

キャロライン・エモンド、IDF 事務総長のコメント：

「最近、酪農乳業セクターは、地球への環境的な影響についてますます注目を集めています。私たちが食べる食物のすべての部分は、それ自身の環境コストを持っていますが、多くの人が気付いていないのは、酪農動物が地球規模の生態系に多くの利益を提供するということです。持続可能な食料システムに関する重要かつ必要な会話を進める中で、酪農家畜が世界の生態系で持つ中心的な位置を認識することが不可欠です。」

多くの国々では、乳畜が他の耕作ができない土地に住んでいます。乳畜はまた、牧草のように人間が食べることができないものを食べることができ、それを牛乳に変えることができます。そして、それから無数の栄養価の高い食べ物に変えられます。乳畜の堆肥は、土壌の肥沃度に寄与し、有機物と栄養素を加えます。単位当たりでは、酪農乳業セクターは、世界のすべての動物製品の中でカーボンフットプリントの最も小さいうちの一つです。乳の生産と輸送の全体的な寄与は、世界全体の GHG 排出量の 2.7%にすぎません。

このイベント「持続可能な食事における反芻動物の役割」は、6月21日金曜日にブリュッセルのベルギー王立科学アカデミーで開催されます。シンポジウムでは場所が限られているため、イベントに参加されたい方はどなたでも、www.fil-idf.org/bamstidfevent2019/でご登録下さい。

完

翻訳：J I D F 事務局

編者注：仮訳の正確性、完全性、有用性等についてはいかなる保証をするものではありません。参考資料として扱い、内容に疑義が生じた場合は英文の原文をご確認ください。